

鹿屋市観光戦略

令和4年3月

鹿屋市

目次

第1章 戦略策定の概要		
1 戦略の目的	…	P.3
2 戦略の位置付け	…	P.4
3 実施期間	…	P.5
4 戦略における SDGs の考え方	…	P.6
第2章 観光の動向		
1 国の観光動向	…	P.8
2 県の観光動向	…	P.8
第3章 本市の現状と課題		
1 本市の地域資源	…	P.10
2 本市の観光動向	…	P.11
3 本市の観光施策の現状と課題	…	P.12
第4章 戦略の基本的な方向性		
1 基本方針	…	P.16
2 数値目標	…	P.17
3 ターゲット設定	…	P.17
4 SWOT分析	…	P.18
5 戦略の体系	…	P.19
第5章 具体的取組		
(具体的取組①) 観光 PR の充実	…	P.21
(具体的取組②) 多様な地域資源を生かしたツーリズムの推進	…	P.23
(具体的取組③) 魅力ある観光地の形成	…	P.27
(具体的取組④) 関係人口の増加につながる施策の展開	…	P.29
(具体的取組⑤) 観光分野における広域・官民連携の強化	…	P.30
第6章 重点プロジェクト		
(重点プロジェクト①) 里山エリアを活用し、何度も“通う旅” “帰る旅”を推進します！	…	P.33
(重点プロジェクト②) ビジネス客も周遊できる “ぶらりまち歩き”を推進します！	…	P.35
(重点プロジェクト③) 高速船を活用し、 サイクルツーリズムを推進します！	…	P.37

第1章 戦略策定の概要

1 戦略の目的

鹿屋市は大隅地域の中心都市として、農畜産業や漁業といった第1次産業を基幹産業として発展してきました。

本市の観光については、豊かな自然や歴史・文化を生かした観光施設が市内に多く存在し、近年は、東九州自動車道の開通区間の拡大や市内における新規宿泊施設の開業など、観光客の受入環境が改善されつつあり、今後の観光客の増加が期待されます。

また、本市の人口の推移をみると、昭和55(1980)年から平成12(2000)年までは一貫して増加傾向にありましたが、その後は緩やかな減少傾向にあり、令和2(2020)年の総人口は101,096人となっています。また、国立社会保障・人口問題研究所が平成30年3月に発表した地域別将来推計人口の推移をみても、令和27(2045)年の本市の人口は81,914人となり、減少傾向は今後も続くと考えられています。

このような中、観光庁は観光交流人口増大の経済効果(2019年)として、定住人口1人当たりの年間消費額(130万円)は、旅行者の消費に換算すると外国人旅行者8人分、国内旅行者(宿泊)23人分、国内旅行者(日帰り)75人分にあたることを示しており、観光交流人口の増加が定住人口減少に伴う消費額の減少を補う効果があることを示しています。

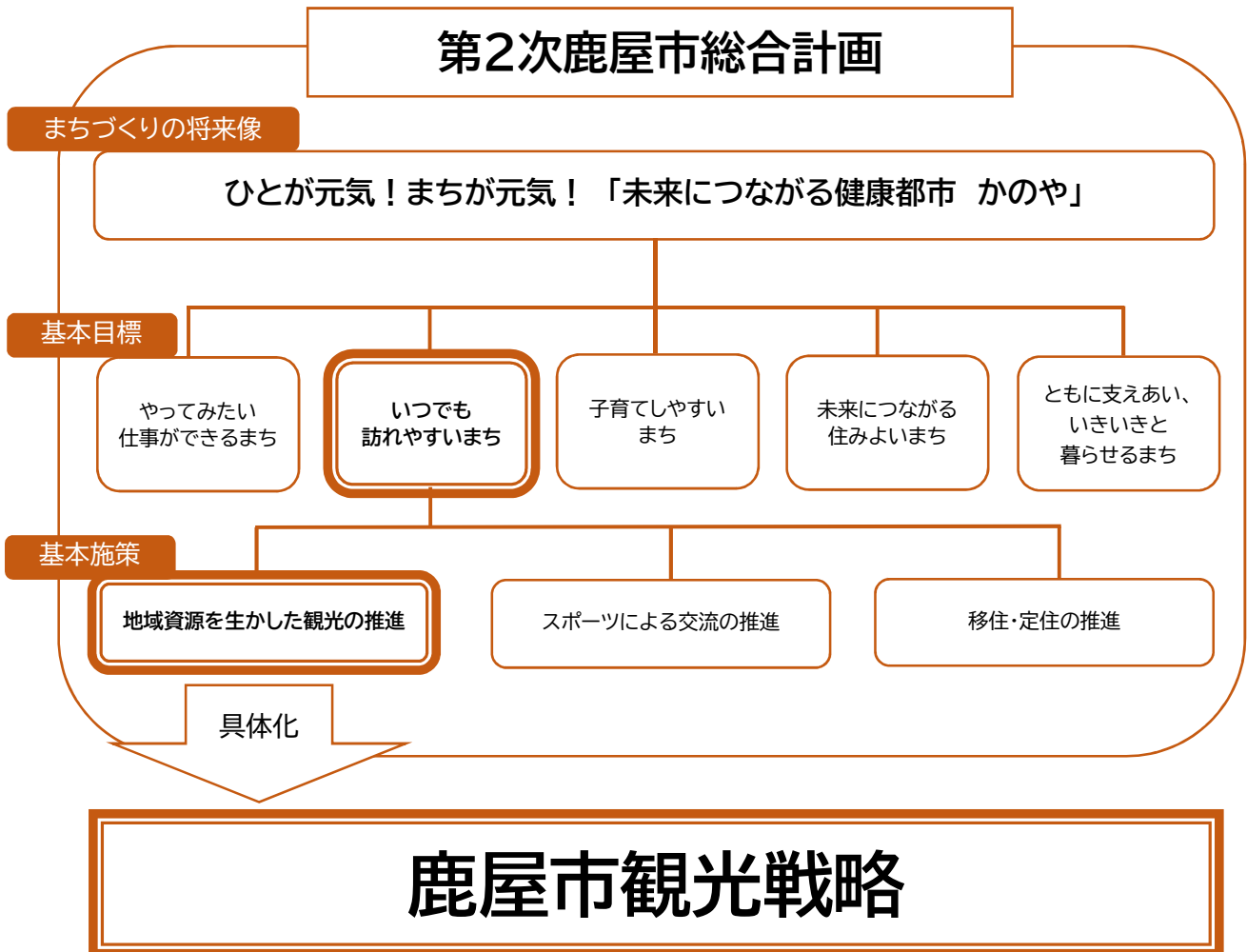
観光産業は裾野の広い産業であることから、観光政策の推進は経済の活性化はもとより、人口減少に伴う影響の低減、本市のファン獲得、ひいては本市への移住・定住人口の増大へ繋がる効果が期待されます。

以上のことから、今回、社会状況の変化、市場の動向等を踏まえ、本市の観光を発展させることを目的に、本市行政の観光政策の指針として、「鹿屋市観光戦略」を策定します。



2 戦略の位置付け

第2次鹿屋市総合計画を上位計画とし、基本目標「いつでも訪れやすいまち」における基本施策「地域資源を生かした観光の推進」に係る取組を具体化する戦略として、「鹿屋市観光戦略」を策定します。



3 実施期間

第2次鹿屋市総合計画を上位計画として策定するため、本戦略の実施期間は、令和4年(2022)度から令和7(2025)年度までの4年間とします。

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
総合計画	<p style="text-align: center;">6年間 (令和元年度～令和6年度)</p>						
観光戦略				<p style="text-align: center;">4年間 (令和4年度～令和7年度)</p>			



4 戦略における SDGs の考え方

本市は、令和2年6月に策定した「総合計画における鹿屋市の SDGs 達成に向けた取組の推進について」において、総合計画で取り組む方向性は、国際社会全体の開発目標である SDGs の目指す 17 の目標とスケールは違うものの、その目指すべき方向性は同様であることから、総合計画の推進を図ることで SDGs の目標達成に資するものとしています。

本戦略は、SDGs の基本理念を尊重し、SDGs の 17 の目標のうち、下の目標と深く関連する戦略となっています。

	該当の目標	該当のターゲット
	質の高い教育をみんなに	4.7
	働きがいも経済成長も	8.1、8.3、8.5、8.6、8.8、8.9
	住み続けられるまちづくりを	11.2、11.4、11.7
	つくる責任 つかう責任	12.5、12.6、12.7、12.8
	海の豊かさを守ろう	14.7
	陸の豊かさを守ろう	15.9
	平和と公正をすべての人に	16.6、16.7、16.b
	パートナーシップで目標を達成しよう	17.13、17.14、17.17

第2章 観光の動向

1 国の観光動向

政府は、平成28年3月に策定した「明日の日本を支える観光ビジョン—世界が訪れたくなる日本へ—」において、「地方創生」への切り札、GDP600兆円達成への成長戦略の柱として観光を位置付け、「観光先進国」の実現に向けた様々な取組を行っています。

一方で、令和2年1月以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、観光需要は大きく減少しています。令和3年度版観光白書によると、令和2年の国内宿泊旅行者数は延べ1億6,070万人(前年比48.4%減)、国内日帰り旅行者数は延べ1億3,271万人(前年比51.8%減)と、いずれも前年を大きく下回っています。

2 県の観光動向

鹿児島県では、平成21年3月に県、市町村、観光事業者及び観光関係団体の共生・協働による「観光立県」の実現に向けて、それぞれの役割や施策の基本となる事項を定めた「観光立県かごしま県民条例」を制定しました。この条例に基づき令和2年3月に策定された「鹿児島県観光振興基本方針」においては、「来て、見て、感動、世界を魅了する観光王国“KAGOSHIMA”づくり」を基本目標に掲げ、「魅力ある癒しの観光地の形成」、「戦略的な誘客の展開」、「オール鹿児島でのおもてなしの推進」の3つの基本的方向性のもと、各種施策を展開しています。

一方で、国の観光動向と同様に、県内の観光動向についても、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けています。令和2年鹿児島県の観光の動向～鹿児島県観光統計～によると、令和2年の県内延べ宿泊客数は5,127千人(前年比38.7%減)、延べ日帰り客数は11,306千人(11.9%減)、外国人延べ宿泊者数は121,380人(前年比85.5%減)、観光消費額は1,565億円(前年比45.2%減)と、いずれも大きく減少しています。

【鹿児島県における延べ宿泊者数】

	H28	H29	H30	R1	R2
延べ宿泊者数(人)	7,202,190	7,986,670	8,864,320	8,366,340	5,126,520
前年比増減率	-9.7%	10.9%	11.0%	-5.6%	-38.7%

(出典:観光庁「宿泊旅行統計」)

【大隅地区における延べ宿泊者数】

	H28	H29	H30	R1	R2
延べ宿泊者数(人)	396,195	354,943	362,292	359,990	234,456
前年比増減率	-19.7%	-10.4%	2.1%	-0.6%	-34.9%

(出典:県観光課「鹿児島県観光統計」)

第3章 本市の現状と課題

1 本市の地域資源

○ 自然等

本市は、日本最大級の規模を誇る「かのやばら園」や、口径 65 センチのカセグレン式反射望遠鏡が設置されている一般公開天文台「輝北天球館」など、自然豊かな観光地があります。また、県内で屋久島、霧島山に次ぐ高山群である高隈山系や、円錐状の山容が美しく、「吾平富士」とも呼ばれる中岳等にトレッキングコースが整備されています。

○ 歴史・文化

学問の神様・菅原道真公を祀る「菅原神社(荒平天神)」や、神武天皇の御父君ウガヤフキアエズノミコトと御母君タマヨリヒメの御陵である「吾平山上陵」があります。

また、鹿屋市は、太平洋戦争時に日本で最も多くの特攻隊員が飛び立った地であり、市内3つの基地跡の周辺には、今もなお多くの戦争遺跡が遺されています。

○ 食

温暖な気候や豊かな自然環境を生かし、さつまいも、茶、各種野菜などの農業をはじめ、豚、肉用牛等の畜産業、カンパチや鰻等の養殖漁業などの水産業において、高い産出額を誇る我が国の食料供給基地を形成しています。これらの食材を活用し、市内飲食店による地産地消の料理の提供や、市内事業者による6次産業化の取組が進められています。

○ 体験

本市は、農泊(農山漁村滞在型旅行)や農林水産業体験などを行うグリーンツーリズム、戦争遺跡を活用した平和ツーリズム、海岸線などの地形を生かしたサイクルツーリズムや錦江湾でのマリナクティビティを楽しむことができます。

○ 宿泊

令和元年から2年にかけて市内に新規ホテルが4軒開業したほか、複数のホテルで改装が進められるなど、宿泊客の受入体制の整備が進められています。また、ユクサおおすみ海の学校や農家民宿においては、マリナクティビティやキャンプ、農業体験も兼ねた体験型の宿泊を楽しむことができます。

2 本市の観光動向

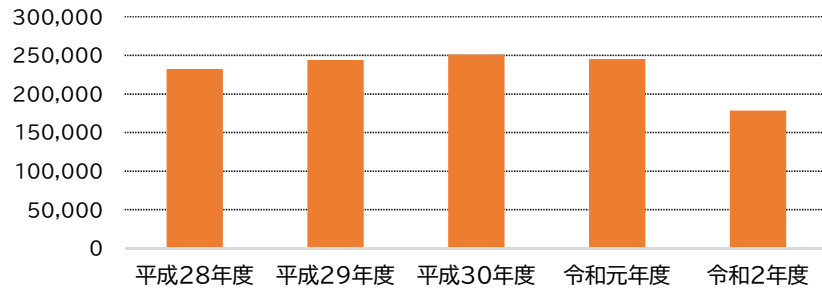
○ 延べ宿泊者数の推移

本市への宿泊客数は、令和元年度まで年間約 24 万人前後で推移していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は対前年比 72.2%と、大幅に減少しています。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
延べ宿泊者数	232,245	244,029	251,071	247,342	178,535
対前年比	100.3%	105.1%	102.9%	98.5%	72.2%

(資料:鹿屋市ふるさとPR課)

延べ宿泊者数



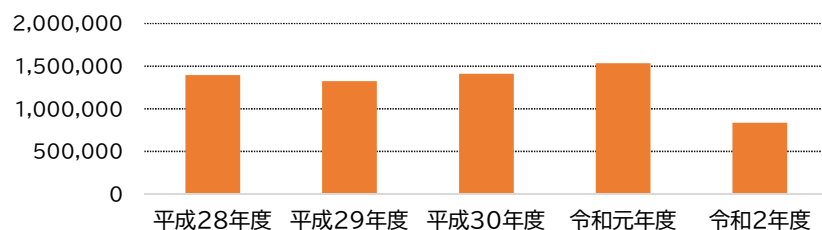
○ 延べ入込客数の推移

延べ入込客数についても同様に、令和元年度まで年間約 140 万人前後で堅調に推移していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は対前年比 54.4%と、大幅に減少しています

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和2年度
延べ入込客数	1,393,571	1,321,472	1,407,537	1,533,034	833,826
対前年比	100.5%	94.8%	106.5%	108.9%	54.4%

(資料:鹿屋市ふるさとPR課)

延べ入込客数



3 本市の観光施策の現状と課題

○ 第2次鹿屋市総合計画における現行施策と課題

第2次鹿屋市総合計画においては、「いつでも訪れやすいまち」という基本目標のもと、地域資源を生かした観光の推進を図るため、5つの具体的施策を官民一体となって推進してきました。

観光PRの充実

本市において、観光情報発信の取組として、本市の観光・グルメ・温泉・自然・イベントなどの旬な話題をリアルタイムで届けるポータルサイト「かのやファン倶楽部」の運営や、地域おこし協力隊として観光PRレポーターを配置し、SNS や YouTube 等を活用したPR活動に取り組んでいます。

また、市内外からの誘客イベントとしては、「エアーメモリアル in かのや」や「かのやばら祭り」、「鹿屋市農業まつり」といった三大祭りをはじめとした特色ある催しが開催されています。

さらに、各地域において、地域の特色を生かしたイベント等の誘客活動を実施しています。吾平地域においては、吾平山上陵における観光案内や、「吾平農業祭」や吾平山上陵周辺地域を周遊するイベントなどに取り組んでいます。

輝北地域においては、輝北地区の農林業及び商工業の活性化を図ることを目的に、「輝北畜産まつり」や「ひらぼうほたるの里ほたる祭り」、「星のふるさと輝北まつり」を開催しています。

串良地域においては、串良平和公園を会場に「串良黒土祭り」や「くしら桜まつり」、総合支所周辺を会場に「二十三夜市」を開催しています。

【課題】

- イベント参加者の減少
- イベント内容のマンネリ化
- ウィズコロナ(新しい生活様式)における対応
- DXへの対応

多様な地域資源を生かしたツーリズムの推進

本市においては、市観光協会と連携し、農泊や農業体験を行うグリーンツーリズムの取組や、市内に残る貴重な戦争遺跡を活用した平和ツーリズムの推進に向け、平和学習ガイドを育成し、教育旅行等の受入、高隈山系や吾平中岳といった資源を生かすため、登山ガイドを育成し、登山客の受入の取組を行っています。

また、サイクルツーリズムに係る取組として、サイクリングルート上に矢羽根型路面標示や自転車ピクトグラムを設置することにより、より快適なサイクリング環境の整備に向けた取組を行っています。

【課題】

- コロナ禍における対応
- 受入体制(農家民宿受入家庭開拓)
- 登山道の維持管理

魅力ある観光地の形成

本市においては、日本最大級の規模を誇る「かのやばら園」の魅力向上に取り組んでいるほか、霧島ヶ丘公園内には、平成30年4月にコンテナショップ「かのやえんがわ」が、令和2年6月には霧島ヶ丘公園内にレストラン・直売所・展望台及び体験コーナーを併設したハム・ソーセージ等の食肉加工施設「くろぶたの丘」がオープンしました。

平成30年に開業した「ユクサおおすみ海の学校」においては、県の魅力ある観光地づくり事業を活用し、遊歩道や展望台等の整備を行っています。

輝北うわば公園においては、バンガロー施設について、グランピング等の新しいニーズに対応するため、指定管理者が主体となってクラウドファンディングを活用し、ユニットハウス方式の宿泊施設を設置することとしています。

また、魅力的な特産品を作るために、事業者と連携して、市内で生産される農林水産物の付加価値を高め、売れる商品の開発及び販路開拓に取り組んでいます。

【課題】

- 施設の老朽化
- 施設利用者の減少
- 観光地や特産品のプロモーション

関係人口の増加につながる施策の展開

ふるさと納税制度を通じた本市の情報発信や地元特産品のPRを行っており、都市圏における「ふるさと会」との連携や全国各地に広がるかのやメンバーズクラブ会員へ特産品情報を発信し、本市の認知度向上と、寄付額の増額を図っています。

また、政策コンテストを手段として首都圏の中高生を対象に本市の知名度向上を図るとともに、地元高校生の参加による地元愛の醸成を図っています。

国際交流に係る取組としては、市民族館やカピックセンター、ホストタウンレガシー(タイ)等を活用し、交流人口拡大や地域経済の活性化を図っています。

また、地域が有する自然を生かした体験や学びを地域運営組織等が提供し、都市住民の受入・交流を行う仕組みを構築する取組を行っています。

【課題】

- 市内外における施策の認知度不足

観光分野における広域・官民連携の強化

国内外からの観光客の大隅地域への流れを戦略的に創出し、観光による地方創生を実現していくため、大隅広域観光開発推進会議や株式会社おおすみ観光未来会議と連携し、地域資源を活用した観光地域づくりを進め、交流人口の拡大、地域活性化、産業振興等を図っています。

また、一般社団法人鹿屋市観光協会では、観光・物産・ツーリズムの3部門が連携した各種事業を展開するとともに、民間事業者を巻き込んだ観光客の受入体制の整備及び誘客促進を図っています。

【課題】

- 株式会社おおすみ観光未来会議の自立的な運営
- 一般社団法人鹿屋市観光協会の自立的な運営

第4章 戦略の基本的な方向性

1 基本方針

第2次鹿屋市総合計画において設定した下記の基本目標・基本施策・具体的施策を推進します。

○ 基本目標
いつでも訪れやすいまち

○ 基本施策
地域資源を生かした観光の推進

○ 具体的施策

観光PRの充実

観光物産フェアや各種キャンペーンでの情報発信、都市圏等でのセールス活動に加え、ホームページやSNS、かのやファン倶楽部、かのやメンバーズクラブ等を活用し、観光・イベント・グルメ・物産などの情報を発信することにより、本市の認知度向上を図ります。

また、国や県などが実施する海外交流事業や外国人招へい事業を活用したインバウンドの誘致に取り組みます。

魅力ある観光地の形成

本市でしか味わえない食や体験メニューの開発のほか、霧島ヶ丘公園やかのやばら園など、既存の観光施設の更なる魅力向上に取り組むとともに、観光施設の通信環境の整備や多言語化、多様な決済手段への対応を進めるなど、観光客が再び訪れたい魅力的な観光地づくりを推進します。

多様な地域資源を生かした ツーリズムの推進

地域の魅力である豊かな自然や食を生かした農泊や登山・トレッキング、戦争遺跡などを生かした各種ツーリズムに加え、地域の伝統文化など他にはない特色ある資源を活用した体験プログラムや周遊ルートの開発に取り組めます。

関係人口の増加につながる 施策の展開

本市の魅力をも効果的に情報発信し、認知度向上を図るとともに、ふるさと会やふるさと納税寄附者など、関係人口の増加を図ります。

また、行政だけで解決することが困難な課題に対しては、大学や民間企業などと連携した取組を積極的に進め、関係人口の拡大に努めます。

観光分野における広域・官民連携の強化

鹿屋市観光協会や市内観光関連事業者、株式会社おおすみ観光未来会議等と連携し、大隅地域の自治体と民間事業者が一体となって観光・物産情報の発信や広域観光ルートの構築などに取り組むことで、官民連携による広域的な観光地づくりを推進します。

2 数値目標

○ 第2次鹿屋市総合計画における数値目標

重要業績評価指標(KPI)	基準値(平成29年度)	目標値(令和6年度)
入込客数	1,321,472人	1,500,000人
鹿屋市観光物産総合センター入館者数	48,399人	63,000人
かのやばら園来場者数	91,105人	120,000人
宿泊者数	244,029人	250,000人

3 ターゲット設定

第2期大隅エリア観光戦略の方針に基づき、本戦略におけるターゲットを下記のとおり定めます。

○ 国内観光客

新型コロナウイルス感染症の影響が不透明な状況であることから、県内在住者及び隣県(宮崎県)をターゲットとして設定し、感染状況を見極め、九州中北部(福岡県・熊本県)、関西圏(大阪府・兵庫県)からの観光客誘客に努めます。

併せて、平和学習やグリーンツーリズム・ブルーツーリズムのコンテンツを活用した、教育旅行の誘致に努めます。

区 分	県内在住者	県外在住者	教育旅行
エ リ ア	鹿児島県	隣県、九州中北部、 関西圏	九州北部、関西圏、 関東圏
宿泊・日帰り	日帰り	宿泊	宿泊
同 行 者	家族、友人	家族、友人	学校
年 代	20～60代	20～50代	10代
観光目的	・ 歴史・文化・自然の 体験プログラム ・ 着地型ツアー(まち 歩き、サイクリング 等)	・ アドベンチャーツー リズム ・ アウトドア体験	・ 平和学習 ・ グリーンツーリズム ・ ブルーツーリズム
移動手段	自家用車、自転車	車、飛行機、九州新幹 線、さんふらわあ、バ イク	飛行機、九州新幹線、 バス

○ 訪日外国人観光客

訪日外国人観光客については、日本と同じ東アジアで、同一の文字(繁体字)を使用し、新日家が多いと言われている「台湾」及び「香港」をプロモーション・誘客ターゲットとして定め、将来的には、観光消費額が多い欧米豪の個人客に向けた取組を実施できるよう努めます。

併せて、マリポートかごしまに寄港するクルーズ船客を、マリポートかごしま～鹿屋港間の不定期航路を活用した誘客につなげるため、鹿児島県・鹿児島県観光連盟とも連携を図ったプロモーションを実施します。

重点市場	台湾・香港 ※将来的に欧米豪	クルーズ船客
年代	30～50代	—
観光目的	・ アドベンチャーツーリズム ・ 地元交流型体験 ・ 農家民泊	・ クルーズ船ツアーに伴うオプションツアー
移動手段	レンタカー、飛行機、九州新幹線	クルーズ船、高速船、バス

4 SWOT分析

第3章の現状・課題、社会の動向、本市の観光客動向を基に、観光地としての本市の「強み」「弱み」「機会」「脅威」を整理します。

<p style="text-align: center;">強み Strength</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 豊かな自然 ② 農畜産漁業が盛ん(食材の宝庫) ③ 貴重な戦争遺跡 ④ 全国にない資源に恵まれている(鹿屋体育大学、海上自衛隊鹿屋航空基地、星塚敬愛園) ⑤ 混雑度が低い ⑥ 大隅半島の中心地、広域連携 	<p style="text-align: center;">弱み Weakness</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 一点突破型の観光地がない ② 知名度が低い ③ 空港や駅が遠い ④ 観光地間のアクセスが悪い ⑤ 着地コンテンツの流通が未整備 ⑥ 施設整備が遅れている(Wi-Fi、キャッシュレス、多言語化対応) ⑦ 地元食材を食べられる個店が少ない ⑧ 地域の観光に対する意識が低い
<p style="text-align: center;">機会 Opportunity</p> <ul style="list-style-type: none"> ① With・after コロナ期のアウトドア志向の強まり ② マイクロツーリズム需要の高まり ③ 教育旅行の多様化 ④ 第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会の開催(2022年) ⑤ 燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会の開催(2023年) 	<p style="text-align: center;">脅威 Threat</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 人口減少 ② 新型コロナウイルス感染症の長期化 ③ 団体旅行マーケットの縮小 ④ 地域間での観光客の奪い合い ⑤ 観光施設の老朽化

5 戦略の体系

基本施策：地域資源を生かした観光の推進

総合計画における具体的施策	取組方針	SWOT分析	取組項目
① 観光PRの充実	国内外からの誘客強化	S1②③④・W2 × O1②	効果的なプロモーションの実施
		S1② × O1②	イベント実施による誘客促進
		S1 × O1②	ばらを生かしたPR
		W2③④ × O1②	ゲートウェイからの誘客強化
		S1② × O4⑤	全国和牛能力共進会及び国民体育大会を契機とした情報発信
② 多様な地域資源を生かしたツーリズムの推進	着地コンテンツの流通促進 教育旅行の受入促進 地域資源を生かしたメニュー開発	S1②③・W5 × O1②・T③	コンテンツのタリフ化(料金表化)
		S③ × O2③	戦争遺跡を生かした平和ツーリズムの推進
		S1②③④ × O2③	教育旅行の受入体制整備
		S1② × O1②	グリーンツーリズム・ブルーツーリズムの推進
		S1 × O1 S1⑤ × O1 S1② × O1② S2・W7 × O2 S1②⑤ × O2	登山・トレッキングの推進 サイクルツーリズムの推進 地域の伝統・文化・祭りを活用したツーリズムの推進 魅力的なお土産の開発・販売促進 高速船を活用したツーリズムの推進
③ 魅力ある観光地の形成	行ってみたい観光地づくり 誰もが訪れやすい観光地づくり	S1⑤ × T⑤ S③ × O2 S1②⑤・W1 × O1②・T1②③	公園整備による魅力の創出 戦跡施設の永続的活用のための整備 里山ツーリズムの推進
		S1②・W6 × O1 W③④ × T③	インバウンドの受入体制整備 二次アクセスの利便性向上
		S2 × T1② W1② × T1	ふるさと納税の推進 シテッセールの推進
		S7 × O1②③・T1④ S7 × O1②③・T1④	株式会社おおすみ観光未来会議との連携 大隅4市5町一体となった誘客促進
		S1②・W7⑧ × O1②・T④ S1②・W7⑧ × O1②	観光協会の組織強化、観光地のルート化 稼ぐ観光地づくり
④ 関係人口の増加につながる施策の展開	関係人口の増加に係る取組	S2 × T1② W1② × T1	ふるさと納税の推進 シテッセールの推進
		S7 × O1②③・T1④ S7 × O1②③・T1④	株式会社おおすみ観光未来会議との連携 大隅4市5町一体となった誘客促進
		S1②・W7⑧ × O1②・T④ S1②・W7⑧ × O1②	観光協会の組織強化、観光地のルート化 稼ぐ観光地づくり
		S1②・W7⑧ × O1②・T④ S1②・W7⑧ × O1②	観光協会の組織強化、観光地のルート化 稼ぐ観光地づくり
		S1②・W7⑧ × O1②・T④ S1②・W7⑧ × O1②	観光協会の組織強化、観光地のルート化 稼ぐ観光地づくり
⑤ 観光分野における広域・官民連携の強化	大隅広域観光の推進強化 地域事業者との連携強化	S7 × O1②③・T1④ S7 × O1②③・T1④	株式会社おおすみ観光未来会議との連携 大隅4市5町一体となった誘客促進
		S1②・W7⑧ × O1②・T④ S1②・W7⑧ × O1②	観光協会の組織強化、観光地のルート化 稼ぐ観光地づくり
		S1②・W7⑧ × O1②・T④ S1②・W7⑧ × O1②	観光協会の組織強化、観光地のルート化 稼ぐ観光地づくり
		S1②・W7⑧ × O1②・T④ S1②・W7⑧ × O1②	観光協会の組織強化、観光地のルート化 稼ぐ観光地づくり
		S1②・W7⑧ × O1②・T④ S1②・W7⑧ × O1②	観光協会の組織強化、観光地のルート化 稼ぐ観光地づくり

第5章 具体的取組

具体的取組① 観光PRの充実

個別KPI

項目	平成30年度	令和6年度
かのやファン倶楽部会員	2,776人	3,000人
かのやファン倶楽部SNSフォロワー数	6,893人	7,500人
ばら園入園者数	91,105人	120,000人
エアーメモリアル in かのや来場者数	23,205人	25,000人
鹿屋市農業まつり来場者数	33,000人	33,000人

国内外からの誘客強化



① 効果的なプロモーションの実施

ホームページや SNS、各種メディアを活用し、自然や食、歴史などの魅力的な観光資源の効果的なプロモーションを行い、本市の認知度向上を図ります。また、ターゲットエリアの旅行会社への営業活動により、本市へのツアー誘致に努めます。

(主な取組)

- ▷ かのやファン倶楽部ホームページや SNS の内容充実
- ▷ 効果に持続性があるテレビ番組等の誘致
- ▷ かのやカンパチロウ・かのやばら大使等を活用した域外への情報発信
- ▷ ツアー誘致に向けた旅行会社への営業訪問

② イベント実施による誘客強化

集客力のあるイベントや地域資源を活用したイベントの企画・実施により、本市の認知度向上及び本市への誘客を図ります。

(主な取組)

- ▷ かのやばら祭りの開催
- ▷ エアーメモリアル in かのやの開催
- ▷ 鹿屋市農業まつりの開催
- ▷ 鹿屋・吾平・輝北・串良地域の資源を生かしたイベントの開催

③ ばらを生かしたPR

市の花である「ばら」を生かし、イベントの開催やツアー誘致により、本市の認知度向上及び誘客促進を図ります。

(主な取組)

- ▷ かのやばら祭りの開催(再掲)
- ▷ かのやばら祭りに向けたツアー誘致

④ ゲートウェイからの誘客強化

鹿児島空港や鹿児島中央駅、志布志港などの県内交通結節点における効果的な情報発信を行うことにより、本市への誘客強化に取り組みます。

(主な取組)

- ▷ 交通結節点における観光情報の発信

⑤ 全国和牛能力共進会及び国民体育大会を契機とした情報発信

令和4(2022)年開催予定の「第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会」及び令和5(2023)年開催予定の「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」のイベント会場において、本市の魅力を発信するとともに、来訪者に対する観光情報の提供により、回遊性の向上を図ります。

(主な取組)

- ▷ 全国和牛能力共進会会場における観光情報の発信
- ▷ 全国和牛能力共進会の結果を踏まえたPR
- ▷ 国体会場における観光情報の発信



具体的取組② 多様な地域資源を生かしたツーリズムの推進

個別KPI

項目	平成 30 年度	令和6年度
教育旅行 誘致人数	133 人 (2校/4クラス)	800~960 人 (5~6校/4クラス)
農家民宿 宿泊者数	425 人	600 人
サイクルイベント・ツーリズム参加者数(関連)	2,669 人	2,740 人

着地コンテンツの流通促進



① コンテンツのタリフ化(料金表化)

着地コンテンツの流通を促進するために、既存観光コンテンツをタリフ化し、旅行会社等へ提案します。

(主な取組)

- ▷ 着地コンテンツのタリフ整備
- ▷ タリフを活用した営業活動の実施



教育旅行の受入促進



① 戦争遺跡を生かした平和ツーリズムの推進

戦時中に3つの基地があり、日本で最も多くの特攻隊員が出撃した本市の歴史や、現在も各地に遺る戦争遺跡を生かし、平和の大切さと命の重みについて学ぶ平和ツーリズムの取組を展開します。

(主な取組)

- ▷ 戦跡資料の高付加価値化
- ▷ 戦跡パンフレットの内容充実・多言語化
- ▷ 空がつなぐまち・ひとづくり推進協議会との連携

② 教育旅行の受入体制整備

本市の豊かな自然や数多く遺る戦争遺跡、国内唯一の国立体育系単科大学である鹿屋体育大学などの体験・学習コンテンツを生かした教育旅行の受入を促進するため、受入体制の整備を進めます。

(主な取組)

- ▷ 教育旅行の受入家庭拡大に向けた勧誘活動の強化
- ▷ 教育旅行向け体験・学習コンテンツの充実
- ▷ 観光スポット周辺環境整備



地域資源を生かしたメニュー開発



① グリーンツーリズム・ブルーツーリズムの推進

全国屈指の農業県である鹿児島県の中でも、「食料供給基地」と呼ばれるほど第一次産業が盛んな本市の自然や食を生かしたグリーンツーリズム・ブルーツーリズムの取組を展開します。

(主な取組)

- ▷ 年間を通じた農業体験メニューの開発
- ▷ 農家民宿の開業支援
- ▷ 漁業体験メニューの開発
- ▷ 鹿屋港における加工場・浮棧橋の整備

② 登山・トレッキングの推進

県内で屋久島、霧島山に次ぐ高山群である高隈山系や、吾平富士とも呼ばれる中岳などの登山・トレッキングコースを生かした誘客を図ります。

(主な取組)

- ▷ 登山ガイドの育成
- ▷ 登山・トレッキングイベントの実施
- ▷ 登山・トレッキングツアーの誘致
- ▷ 登山道等の維持管理

③ サイクルツーリズムの推進(関連)

本市や大隅半島の環境を生かした広域的なモデルルートの設定や情報発信、サイクリストの受入体制整備やサイクルイベントの開催を通じて、自転車をきっかけとした観光誘客を図ります。

(主な取組)

- ▷ 広域的なモデルルートの設定
- ▷ サイクルステーションの整備
- ▷ サイクリングイベントの実施

④ 地域の伝統・文化・祭りを活用したツーリズムの推進

市内各地に遺る歴史的な遺跡や文化、古くから語り継がれる伝統や地域の特色ある祭りと観光を融合した取組を展開します。

(主な取組)

- ▷ 伝統文化・祭りの体験メニュー化
- ▷ 旧国鉄大隅線の活用

⑤ 魅力的なお土産の開発・販売促進

本市の特色ある食の資源を生かした魅力的なお土産開発及び販売促進に向けた取組を行います。

(主な取組)

- ▷ 鹿屋独自のお土産の開発支援
- ▷ 特産品コンクールの開催
- ▷ 鹿屋市観光物産総合センターを核とした物産販売所の充実

⑥ 高速船を活用したツーリズムの推進

マリポートかごしま～鹿屋港間の旅客不定期航路を活用したツアー造成に関する取組を実施することにより、クルーズ船観光客及び薩摩半島在住者の大隅半島への誘客を図ります。

(主な取組)

- ▷ 航路を活用したツアーコースの検討
- ▷ 航路を活用したツアーのタリフ化
- ▷ クルーズ運営会社、旅行会社等への営業活動

具体的取組③ 魅力ある観光地の形成

個別KPI

項目	平成 30 年度	令和6年度
ばら園入園者数	91,105 人	120,000 人
霧島ヶ丘公園利用者数	244,715 人	297,800 人

行ってみたい観光地づくり



① 公園整備による魅力の創出

本市のメインとなる観光施設である「かのやばら園」をリニューアルするとともに、公園施設の整備を行うことにより魅力を創出し、県内外からの誘客につながる観光資源として磨きをかけていきます。

(主な取組)

- ▷ かのやばら園のリニューアル
- ▷ 輝北うわば公園への宿泊施設設置

② 戦跡施設の永続的活用のための整備

本市の貴重な戦争遺跡を後世に遺し伝えるために、戦跡施設の整備及び維持管理を行うとともに、VR等を活用した磨き上げを行います。

(主な取組)

- ▷ 戦跡保存のための整備・維持管理
- ▷ VR技術を活用した磨き上げ

③ 里山ツーリズムの推進

本市の里山エリアを「第2のふるさと」として、何度も通う旅・帰る旅という新たなスタイルを推進・定着させるとともに、地域が一体となって「稼げる地域」となることで、地域活性化を図ります。

(主な取組)

- ▷ 里山ツーリズム受入体制整備
- ▷ 里山ツーリズム定着化に向けた取組

誰もが訪れやすい観光地づくり



① インバウンドの受入体制整備

外国人目線での観光案内機能の充実やクルーズ船観光客の受入体制の整備を行うことにより、外国人も訪れやすいまちづくりを努めます。

(主な取組)

- ▷ パンフレットの多言語化
- ▷ 観光案内板の多言語化
- ▷ 通信環境整備
- ▷ キャッシュレス決済導入支援

② 二次アクセスの利便性向上

観光客が安全で快適に移動ができるように、二次アクセスの利便性向上に向けた情報発信や観光拠点間の移動手段の確保に取り組みます。

(主な取組)

- ▷ 交通結節点における観光情報の発信(再掲)
- ▷ 既存路線バス等の接続性の改善
- ▷ ゲートウェイからの二次交通の導入検討



具体的取組④ 関係人口の増加につながる施策の展開

個別KPI

項目	平成30年度	令和6年度
ふるさと納税寄附件数	77,486件	100,000件

関係人口の増加につながる取組



① ふるさと納税の推進

ふるさと納税制度を通じて、本市の特産品等を全国に発信し、地域の産業振興・活性化を図ります。

(主な取組)

- ▷ ふるさと納税制度の効果的な運用
- ▷ 新規事業者の掘り起こし

② シティセールスの推進

本市の認知度・知名度向上を図るとともに、関係人口の増加を目的に、関係機関と連携したシティセールスの取組を推進します。

(主な取組)

- ▷ ふるさと会への支援
- ▷ かのやカンパチロウ・かのやばら大使等を活用した域外への情報発信(再掲)
- ▷ 県内外の教育機関と連携した事業実施

具体的取組⑤ 観光分野における広域・官民連携の強化

個別KPI

項目	平成30年度	令和6年度
大隅地域延べ宿泊者数	497,753人	450,000人
観光物産総合センター訪問者数	48,399人	63,000人

大隅広域観光の推進



① 株式会社おおすみ観光未来会議との連携

株式会社おおすみ観光未来会議と連携し、大隅広域のスケールメリットを生かした戦略的な観光地経営による交流人口の増加、産業振興等を図ります。

(主な取組)

- ▷ WEB(SNS等)を活用した情報発信
- ▷ ターゲット誘客に向けた旅行関係者への営業活動
- ▷ マーケティングデータの収集・分析・フィードバック
- ▷ 観光地域づくりのマネジメント(企画・働きかけ・情報収集・フィードバック)

② 大隅4市5町一体となった誘客促進

大隅4市5町(鹿屋市、垂水市、曾於市、志布志市、大崎町、東串良町、錦江町、南大隅町、肝付町)で連携した事業を実施することにより、大隅広域のスケールメリットを生かした観光誘客を推進します。

(主な取組)

- ▷ 大隅広域観光開発推進会議の運営
- ▷ 大隅半島一体となった誘客キャンペーンの実施
- ▷ サイクルツーリズムの推進(再掲)

地域事業者との連携の推進



① 観光協会の組織強化、観光地のルート化

持続的な観光推進や新たな観光発展の可能性を創出するために、一般社団法人鹿屋市観光協会が主体となった事業実施を支援します。

(主な取組)

- ▷ 観光協会の自立的な運営支援
- ▷ 市内観光地のルート化

② 稼ぐ観光地づくり

観光消費額の増大を図るため、市内観光事業者・特産品事業者と連携し、稼ぐ観光地づくりを行います。

(主な取組)

- ▷ 観光に携わる人材の育成
- ▷ 市内観光事業者の受入機運の醸成
- ▷ 鹿屋市観光物産総合センターを核とした物産販売所の充実(再掲)
- ▷ 着地コンテンツのタリフ整備(再掲)
- ▷ 地場産品や土産品の磨き上げ

第6章 重点プロジェクト

重点プロジェクト①

里山エリアを活用し、何度も“通う旅”

有名温泉地や一点突破型観光スポットに恵まれない鹿屋・大隅の「弱点」を「強み」に。

観光地化されていない、混雑とも無縁の「里山」(集落)で地元の人々の営みと一体化した滞在をリピートしていただけるように、鹿屋ならではの地域資源として「里山エリア」をフィールドに、豊かな自然、おいしい食、お互いの顔が見える交流といった滞在・体験プログラムを提供します。

お客様のライフサイクルの変化、受け入れる地元の方々の事情の変化にも合わせてプログラムを柔軟に変化させるとともに、人的コストを回収することにより、継続できる仕組みを作ります。

プロジェクトのねらい 多様な地域資源を魅力的な観光資源として生かす

■ 滞在・体験プログラムの整理・受入体制の仕組み作りが必要

- 〔ターゲット〕 国内観光客(段階的に九州圏の家族から関西・関東圏の家族へと拡大)
- 〔鹿屋市の強み〕 豊かな自然、農畜産漁業が盛ん(食材の宝庫)、混雑度が低い
- 〔鹿屋市の弱み〕 一点突破型の観光地がない、着地コンテンツの流通が未整備

推進のステップ

5年後の姿(目指す姿)

農業体験以外にも、スポーツや文化を通じて、里山で多くの交流が行われ、子どもたち同士のネットワークが広がり、一部の方は鹿屋へ移住。里山エリアは、訪れる人が感動を味わえる魅力的な体験ができる地域へと成長。

令和5年度以降

- ①プログラムの修正と磨き上げ
- ②他地区でのプログラム整備・実証運用
- ③販売体制の構築

令和4年度

- ①地元関係者とのプログラム準備・試行
モデル地区となる里山エリアを1地区選定し、地元関係者と滞在・体験プログラムの調査・準備・試行を行います。
- ②一般参加者を交えての実証運用
一般参加者を募集し、実証運用(10~20名×2回程度)を行い、受入れに向けた課題を整理します。
- ③検証にもとづき、継続できる事業化準備
実証運用によって整理された課題をもとに、継続的に実施できる仕組みを構築するために、次年度に向けた準備を行います。

令和3年度

- ①プログラム整備・実証費用確保に向けた準備
- ②R4実証候補地との調整

〔関連する取組項目〕

具体的施策	取組方針	取組項目
多様な地域資源を活用したツーリズムの推進	地域資源を生かしたメニュー開発	グリーンツーリズム・ブルーツーリズムの推進
		地域の伝統・文化・祭りを活用したツーリズムの推進
魅力ある観光地の形成	行ってみたい観光地づくり	里山ツーリズムの推進
観光分野における広域・官民連携の強化	地域事業者との連携強化	稼ぐ観光地づくり

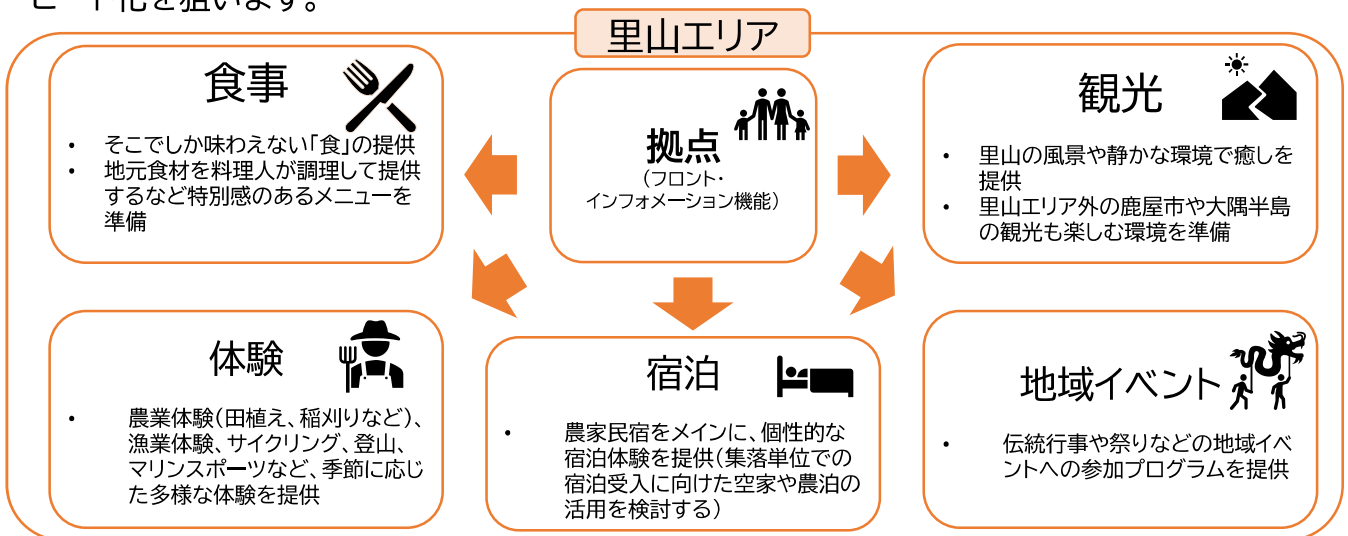
“帰る旅”を推進します！

推進のイメージ

● 滞在・体験プログラムの整備

里山エリア内で食、体験、地域イベント、あるいは何も無い空間と希望に応じて地元の方とのふれあいを組み合わせることで、「滞在型リゾート」としての魅力を醸成します。

また、滞在満足度を向上させることにより、来訪者に「第2のふるさと」と感じてもらい、リピート化を狙います。



● 滞在スケジュールイメージ

1日目	オリエンテーション…昼食(地元食堂)…エリア内ガイドツアー…体験(農業体験)…観光(サイクリング)…地元の方と話を…のんびり過ごす…夕食(特別イベント)…星空観察…最寄りの入浴施設で入浴
2日目	朝食(各宿泊施設又は特別昼食会)…体験(漁業体験)…観光(かのやばら園)…地元の方と話を…のんびり過ごす…プログラム終了



農業体験イメージ



宿泊イメージ



地域イベントイメージ

● 着地型旅行商品として

体験・宿泊等を含め1泊2日当たり20,000円/人の価格を想定

● 持続可能な事業実施体制

収益を地域に還元することにより、事業を継続できる仕組みを構築

活動指標

- 令和4(2022)年度までにモデルとなる里山エリアを1地区造成する。
- 令和7(2025)年度までに里山ツーリズムによる来訪者数を延べ300人(年)にする。

重点プロジェクト②

ビジネス客も周遊できる

本市は、大隅半島の中央に位置し、官公庁が多く所在する立地条件等から、営業関係者や工事関係者等のビジネス客が多く宿泊しており、また、近年、中心市街地近隣には民間事業者の投資による新たなホテル建設が行われてきました。

しかしながら、宿泊施設から周遊する仕組みが構築されておらず、宿泊施設や近隣の飲食店にしかお金が落ちていないのが現状です。

そこで、宿泊施設から滞在・周遊できるよう着地型体験メニューの開発やまち歩きガイドの育成、かのやの定番土産商品の開発・販売など、地域全体が稼ぐ仕組みを作ります。

プロジェクトのねらい **ビジネス客の観光消費額増加**

- ビジネス客が滞在・周遊することによる観光消費額を増加させる仕組み・仕掛け作りが必要
 [ターゲット] ビジネス客・国内観光客
 [鹿屋市の強み] ホテル建設による供給客室数の増加、黒牛や黒豚など豊かな食材が豊富
 [鹿屋市の弱み] 定番のお土産商品がない。

推進のステップ

5年後の姿(目指す姿)

- ・ 鹿屋の「逸品」お土産の販売が増加
- ・ ビジネス客の周遊が、観光客にも派生し、食事を目当てに訪問する日帰りや宿泊の旅行者が増加

令和5年度以降

- ①お土産品の販売(ホテルフロント等)
- ②飲食店等を周遊するイベントの実施等

令和4年度

- ①お土産品の開発
市特産品コンクール等の入賞商品や既存のお土産品の磨き上げにより、鹿屋ならではの「逸品」を開発します。
- ②飲食店等を巡るグルメマップの作成
宿泊施設近隣の食事処やお土産店、観光箇所を落とし込んだグルメマップ(デジタル媒体含む)を作成します。
- ③飲食店を周遊する体験メニュー開発やイベントの企画・実施
各商店街等が実施する既存イベントとコラボしたスタンプラリーなど、デジタルコンテンツを活用し、参加者が鹿屋を楽しむことができるイベントを実施します。

令和3年度

- ①事業方針検討
- ②関係者協議

〔関連する取組項目〕

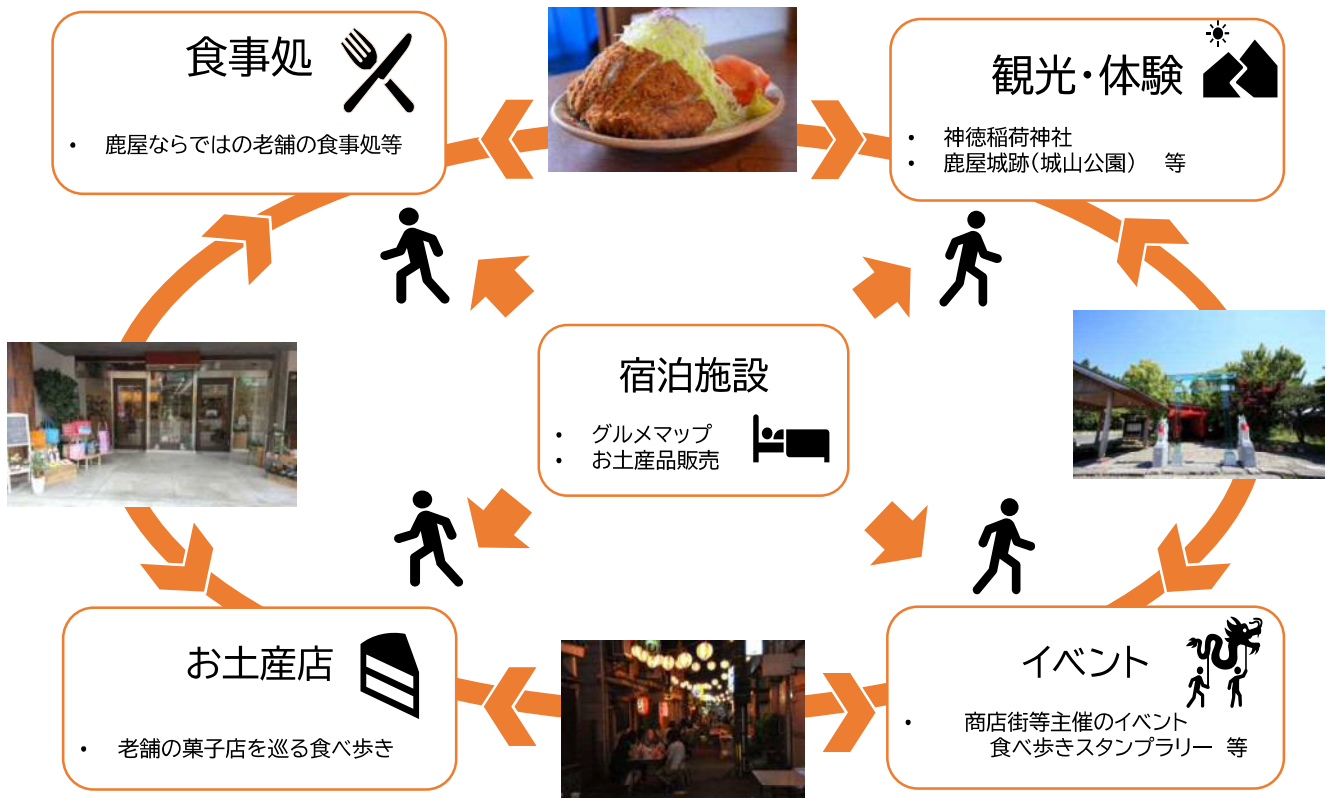
具体的施策	取組方針	取組項目
多様な地域資源を活用したツーリズムの推進	着地コンテンツの流通促進	コンテンツのタリフ化(料金表化)
	地域資源を生かしたメニュー開発	地域の伝統・文化・祭りを活用したツーリズムの推進
		魅力的なお土産品の開発・販売促進
観光分野における広域・官民連携の強化	地域事業者との連携強化	稼ぐ観光地づくり(グルメマップ作り)

“ぶらりまち歩き”を推進します！

推進のイメージ

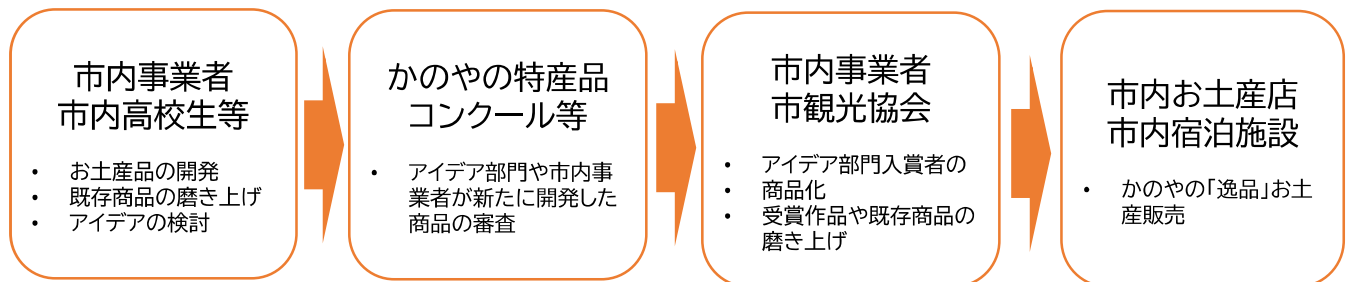
● ぶらりまち歩き のイメージ

宿泊施設を拠点として、食事処やお土産店、観光地、イベントなどを滞在・周遊するモデルコースを設定し、宿泊者個人ごとが選択し訪問



● お土産開発 イメージ

かのやの特産品コンクール等において、地元高校生や事業者からのアイデアや、新たに開発した商品の審査を行い、入賞商品の商品化や磨き上げにより新たなお土産品の開発を支援



活動指標

- 令和7(2025)年度までに民間主体のぶらりまち歩きイベントを開催し、参加者を4,000人(年)にする。 ※1,000人×4回
- 令和7(2025)年度までにかのやの「逸品」お土産販売数を25,000個(年)とする。

重点プロジェクト③

高速船を活用し、サイクルツーリズムを

マリポートかごしま(鹿児島市)～鹿屋港の旅客不定期航路を活用し、高速船で薩摩半島から大隅半島へ移動するツアーを開発します。鹿屋港を起点とし、各観光施設や食事処へと結ぶ二次交通として、自転車を活用した仕組みづくりに取り組みます。



プロジェクトのねらい “高速船×サイクリング”で海岸線の魅力を活かす

- 高速船ツアーの利便性向上及びサイクリングによる魅力発掘
 - 〔ターゲット〕 県内観光客(主に薩摩半島在住者)
 - 〔鹿屋市の強み〕 豊かな自然、混雑度が低い
 - 〔鹿屋市の弱み〕 空港や駅が遠い、観光地間のアクセスが悪い

推進のステップ

5年後の姿(目指す姿)

高速船を使って、気軽に鹿児島市(マリポートかごしま)から鹿屋港へ行くことができる。鹿屋港に着いた後は、自転車を使って、大隅半島のきれいな景色や美味しい食事を楽しむことができる。

令和5年度以降

- ①自転車の利用環境整備
- ②販売体制の構築
- ③運用開始

令和4年度

- ①地元関係者との協議
主に海岸地域の地元関係者と協議を行い、事業実施に向けたコンセンサスを図ります。
- ②コンテンツのタリフ化・磨き上げ
提供可能なコンテンツを整理しタリフ化を行います。また、より魅力的なコンテンツとなるように磨き上げを行います。
- ③モニターツアーの実施
モニターツアーを実施し、事業の課題を整理するとともに、次年度の取組方針を検討します。

令和3年度

- ①事業方針検討

〔関連する取組項目〕

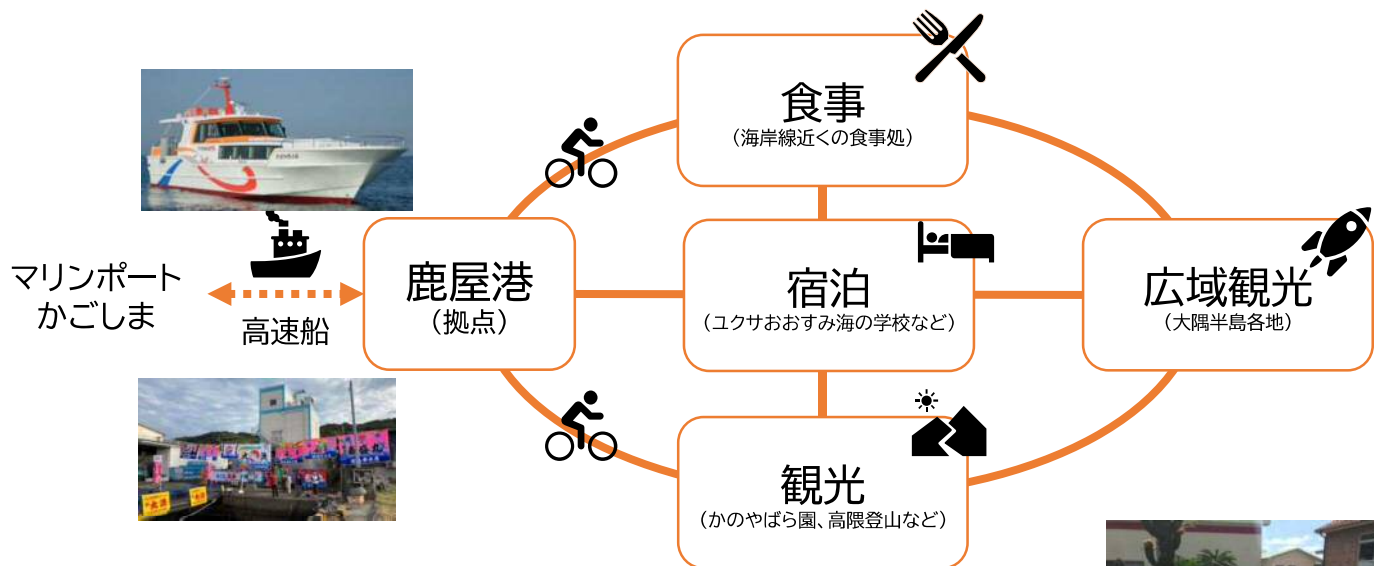
具体的施策	取組方針	取組項目
多様な地域資源を活用したツーリズムの推進	着地コンテンツの流通促進	コンテンツのタリフ化(料金表化)
	地域資源を生かしたメニュー開発	サイクルツーリズムの推進
		高速船を活用したツーリズムの推進
魅力ある観光地の形成	誰もが訪れやすい観光地づくり	二次アクセスの利便性向上

推進します！

推進のイメージ

● 滞在イメージ

マリンポートかごしま(鹿児島市)から高速船で鹿屋港へ渡り、鹿屋港に着いた後は、自転車に乗って海岸線の景色を楽しみながら観光地や食事処を巡る。



● 滞在スケジュールイメージ

① 日帰りの場合

9:00 マリンポート発... 9:45 鹿屋港着... 10:00 荒平天神...
10:30 ユクサおおすみ海の学校... 13:00 かのやばら園(昼食)...
15:00 南風農薬舎... 16:00 鹿屋港発... 16:45 マリンポート着

② 宿泊の場合

1 日 目	9:00 マリンポート発... 9:45 鹿屋港着... 11:00 御岳登山口... 12:30 御岳山頂(昼食)... 14:00 御岳登山口... 16:00 温泉... 17:30 ホテル着
2 日 目	9:00 ホテル発... 10:30 雄川の滝... 12:30 花瀬公園(昼食)... 14:00 道の駅錦江にしきの里... 15:30 鹿屋港発... 16:15 マリ ンポートかごしま着



活動指標

- ① 令和7(2025)年度までに高速船を活用したサイクルツーリズムプログラムの利用者を延べ360人(年)にする。